



学習院大学史料館 ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.28

発行日 ● 平成27年(2015)4月1日

もくじ

ごあいさつ	1
ボンボニエール—掌上の皇室文化—	1
ボンボニエール図鑑	2



ごあいさつ

私は、前館長和光純経済学部教授の後任として、本年度より館長を務めさせて頂く同じく経済学部の上田隆穂と申します。よろしくお願い申し上げます。

さて学習院大学史料館では、平成27年4月4日(土)～6月6日(土)まで、特別展「ボンボニエール—掌上の皇室文化—」を開催致します。ボンボニエールとは小菓子入れなのですが、華やかな工芸意匠が施されており、多くの皇室文化が詰まっている素晴らしいものです。多様な形があり、いわれがあり、見るだけでも楽しくなります。

本号では、この特別展に関連する記事・写真を掲載致しました。本レターを通じて、当館の展示や活動を身近に感じて頂ければ幸いです。

展示会の実施と本号の作成にご協力くださいました皆様に心から御礼申し上げます。

(史料館長 上田隆穂)

ボンボニエール—掌上の皇室文化—

近代国家への道を歩む明治政府は、宮中における饗宴を外交手段などに用いました。天皇家はもとより、各宮家、旧大名、旧公家をはじめとする華族家などでも盛んに饗宴が催されました。そのような饗宴、とくに慶事の正餐の際に小さな引出物が配られる慣習が生まれました。この引出物は「ボンボニエール」と呼ばれています。

ボンボニエールという名称は、フランス語の「ボンボン入れ bonbonnière」に由来するもので、その名が示す通り、中には小菓子が入れられます。本体は概ね銀製で、華やかな工芸意匠が施され、家紋があしらわれることも多くあります。現在の皇室においてもこの工芸品を引出物とする慣習は続いています。

当館では現在250点余のボンボニエールを収蔵しています。これまで「男爵物語」展、「是！」展、「桜園名宝」展などにおいて、数点ずつ展示公開をしてまいりました。この度ボンボニエールを中心に展覧会を開催いたします。

一つ一つは掌上に乗るほどの小さな工芸品ですが、そこからは明治政府が近代国家になるための努力や、日本の伝統文化、工芸技術の粋、皇室のおもてなしの気持ちなどを読みとることが出来ます。ぜひこの機会にご覧いただきたいと思います。

(学芸員 長佐古美奈子)



六角形黄心樹石南花文ボンボニエール 常陸宮正仁同妃金婚式 平成26年9月 個人蔵